

# 人文学会報

No.82号  
2019. 7. 20

事務局  
〒890-0005 鹿児島市下伊敷二丁目52番1号  
鹿児島県立短期大学 文学科 日文学料室  
鹿児島県立短期大学 人文学会

電話(〇九九)二三〇一二二一

〈研究室だより〉

みなさん、こんにちは

ガルシア・アロヨ ホルヘ

みなさん、こんにちは。私はガルシア・アロヨ ホルヘと申します。私はスペインのマドリッド出身です。私は常に人文科学に情熱を傾けてきました。それが私の専門が言語（英語とスペイン語）、歴史そしてアメリカ文学である理由です。私が愛するもう一つのことには私の知識を他の人々に伝えることです。それが私が教員になった理由です。

私は今年4月から鹿児島県立短期大学で専任講師として働き始めました。県短では、「基礎演習Ⅱ」セミナーとアメリカの歴史を扱う科目「アメリカ事情」、オーラルコミュニケーション科目を担当

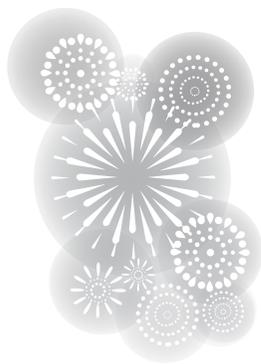
しています。

現在、ますますグローバル化している世界では、英語で効率的にコミュニケーションをとる方法を知ることが、仕事をし、毎日世界で何が起きているのかをよりよく理解するための不可欠なツールです。従って、学生が求めているのは、自分が英語で正しく理解でき、世界のどこから来た人たちともコミュニケーションをとる、職業上の目標を達成できるようにすることだと思っています。心配しないでください。私のオーラルコミュニケーションセッションクラスでは、人生のさまざまな状況に適応した多種多様な語彙や表現を習得して使用します。さらに、イントネーション、発音、ボディランジェージなどのプレゼンテーションを作成するための重要なポイントを学びます。これにより、英語で効率的にコミュニケーションをとることができます。そのうえ、卒業論文の執筆の準備として本専攻はまた

あなた達に英語圏の国々の文化と歴史の様々な側面（アメリカ文学「基礎演習Ⅱ」、そしてアメリカ歴史「アメリカ事情」）を学ぶ機会を与えます。

実のところ、私は県短で非常勤講師として働いていた時、県短の家族を構成するすべての人の良い雰囲気と優しさに驚きました。今私は専任講師になりましたので、私に与えられたこの機会に対する感謝の気持ちがあります。私は学生の英語に関連した夢を達成することを確実に実行するために一生懸命努力をします。クラスで会いましょう。

（文学科英語英文学専攻 専任講師）



## 司書の仕事



宮崎 沙佳

私は平成29年度に鹿児島県立短期大学を卒業後、在学中に取得した教員免許・司書教諭資格を生かし、隣町の小・中学校3校を回り学校司書として働いています。また、夏休み期間1か月間のみ町内の町立図書館でも勤務をしております。

隣町には小学校が2校・中学校が1校あり、その3校を曜日ごとに回り勤務をします。学校司書は司書資格を持つての採用となることが多いのですが、私の場合運よく司書教諭資格で採用していただきました。卒業後4月から3か月間、町立図書館で研修として勤務し、その後学校司書として各校を回るようになりました。

主な仕事内容としては、本の貸出手続き、本の補修、新刊本の受け入れ、本の廃棄作業、選書、新入生へのオリエンテーション、図書飾りの作成、授業での資料

提供などを行い、その他学校行事・中体連・クラブ活動の指導員などに参加しています。

学校へ勤務するようになって、子どもたちと接する時間が増えました。在学中に中学校へ教育実習に行きました。小学校は初めての体験でした。私は立場上教員ではありません。町で支援員として雇っていただいているため支援員であって教員ではないのです。しかし、児童生徒は私を呼ぶとき「先生」として呼んでくれます。教員ではありませんが、指導すべきところはしなければいけません。勤務当初はどこまで言うべきか、言わないでおくべきか、線引きに悩みました。しかし、先生方に相談することで少しずつ解決していきました。また、小学生の授業に参加する際、学年によって理解できる言葉のレベルが大きく異なってきました。6年生はある程度普通に話して構いませんが、1年生はそういうわけにいかず、いかに簡単な言葉で話すのか気を付けなければいけません。そこも、先生方の話しているところや、児童が話している言葉を観察し解決してい

きました。勤務してから今まで本当に探り探りの日々でした。

図書業務についてですが、基本は児童生徒、先生方に対して貸出し・返却手続き、本の補修、書架の整理を行っています。本の貸出し、返却は各校ともバーコードで行われます。各校曜日ごとに回っていますので、どうしても勤務できない曜日があります。その時の貸出し・返却手続きは先生方や図書委員が行ってくれます。私が勤務日ではない時に、やって欲しいこと、やってはいけないことは図書委員さんには特に気を付けてもらっています。そして、勤務日に対応できるようにしています。

基本的には図書室で1人で作業していることが多いのですが、調べ学習などで図書室を利用される場合は、資料探しのお手伝いをしたり、図鑑の見かたを教えたりと補助的な仕事をしています。他にも新入生向けに図書室利用のオリエンテーションをしたり、2年生の生活科の授業、4年生の国語の授業で図書館調べや分類法を学ぶ授業があるため、そこでは全体へ説明を行い、質疑応答を行うな

ど、授業への参加もしています。授業への参加は、先生方からご相談を受け、事前に何時間目にやるのか、どんな内容を話すのか、どんなことを調べるのかの打ち合わせを軽く行います。必要があれば、資料を事前に集め用意しておきます。先生方とコミュニケーションをとり進めていきます。

上記では学校勤務についてでしたが、夏休み期間には町立図書館でも勤務をします。ですが、私は司書資格を取得してないので、貸し出し・返却手続き、返却された資料の片付け、雑誌の受け入れなどを行い、選書や相互貸借は司書資格を持った嘱託職員の方が行います。

私は、現在司書資格を通信講座で取得中です。学校か公共図書館か、どちらに腰を据えて働くことになっても必要な資格だと思って受講し始めました。学校と公共図書館と両方に勤務して、どちらも魅力があり、どちらもやりがいのある仕事です。自分にとって非常に楽しい仕事です。司書資格を取得し、卒の少ない正規採用を目指して成長していきたいと思っています。

(二〇一七年三月 日本語日本文学専攻卒業、長崎県で非常勤の学校司書として勤務)



## わたしの仕事

江藤 智恵

私はいまテレビ番組をつくるディレクターという仕事をしています。

今年で3年目になりますが、まだまだ出来ないことばかり、上手くいかないことばかりで、周りの人に支えてもらいながらなんとか番組づくりをしています。

現在、主に担当しているのは鹿児島市の広報番組です。まず市が決めたテーマ

をもとに打ち合わせをします。次に構成台本を作成し取材に取り掛かります。現場にはカメラマンや音声マン、レポーターと一緒にいき、自分がどんな映像を撮りたいかを説明しながら、ロケを仕切りまします。取材が終わると、今度は編集作業です。映像を見ながらナレーション原稿を作成するのですが、なかなかいい文章が思い付かなかつたりして私は毎回ここで一番苦しみます。原稿が出来るとナレーションを録り、BGMや字幕スーパをつけて完成です。

私は元々テレビのディレクターになリたかつたというわけではありません。

将来やりたい職業や目指しているものも特にありませんでした。なんとなく自分には一般事務の仕事が向いているだろうと、県短2年のときに受けたのが地元テレビ局の庶務の仕事です。3年間の期限付き契約社員でした。テレビ局には、番組をつくる「テレビ制作部」以外にも「報道部」や「営業部」、「編成部」、「アナウンス部」など様々な部署がありますが、その中で私が偶然配属されたのが「テレビ制作部」です。電話対応をは

じめ、ディレクターの皆さんが取材で使った経費の伝票処理や倉庫の在庫管理などが庶務の主な仕事です。

しかし働き始めてすぐにFDという仕事もしてみないかと言われました。FDとは、フロアディレクターのことで、ディレクターのアシスタントのような存在です。生放送中ディレクターの指示のもと、スタジオ全体を見渡しながらスタッフに合図を出します。あと〇〇秒という時間札やカンペを出したり、出演するゲストの誘導をしたり、試食の準備をしたり、スタジオ全体を仕切るリーダーです。パソコンに向かって働く庶務の仕事とは全然違います。

私はどちらかというと内向的で、人をまとめるリーダーとは程遠い性格です。人前で話すこともとても苦手です。自分には向いてないだろうと思ひ戸惑いましたが、今までの自分を変えるきっかけになるかもしれないと思い、FDにも挑戦することにしました。やり始めてみると、想像以上に楽しい仕事でした。スタジオだけでなく、外に出て中継をすることも多く、庶務の仕事だけでは体験出来

ないいろいろな経験ができました。今までの人生で、自分には出来ないだろうと決めつけて何も挑戦してこなかった私は、やればできるんだと少し自信がつかれました。このことがきっかけで、番組を作るディレクターの仕事にも興味を沸き、FDを卒業してフリーランスの立場でディレクターに挑戦し始めて今年目になります。

土日に取材が入ることもありますし、編集が夜遅くまでかかることもあって、とても大変な仕事ですが、鹿児島のことをたくさん知ることができたり、地元でがんばっている人の様子を間近で見たり、直接話を聞いたりすることが出来るのはとても魅力的な仕事だと思っています。

庶務として入った私は、まさかテレビの仕事をする事になるとは夢にも思っていないんですけど、FDという仕事に思い切って挑戦してみても良かったなと思っています。

将来の夢や目指すものが無く、なんとなく過ごしていた私。ディレクターとして自分が見たり、聞いたりして感じたも

のをもっと上手く映像にまとめられるようになることが今の目標です。

(二〇一三年三月 日本語日本文学専攻 卒業)



## 大好きな英語を生かせる仕事

瀬戸山 史華

私は県短卒業後、鹿児島市にある船舶代理店で働いています。船舶代理店と言われてもどんな仕事をしているか想像がつかない方がほとんどだと思います。実際私もここで働くまでこんな仕事がある

なんて知りませんでした。私の基本的な仕事は外国籍の船舶がスムーズに入出港するための岸壁予約を始め、メールで入出港に関するスケジュールのやりとり、CIQ（税関、出入国在留管理局、検疫）への手続き、乗組員の交代に関する宿泊手配や空港アテンド、乗組員や乗客の病院アテンドなどを船舶の代わりに行うことです。貨物船や漁船など様々な種類の船舶がある中でも私は主に外国籍のクルーズ船を担当しています。鹿児島港に入港するクルーズ船は年間約100隻で、停泊時間はだいたい8時間ほどです。大きなクルーズ船だと乗客約5000名、乗員約一七〇〇名が乗船しており、約六七〇〇名が一気に鹿児島に上陸します。短い滞在時間の中で鹿児島をより満喫してもらうために、船舶の乗組員とCIQとの間に立ち、双方の意見を聞きながらできるだけ早く手続きを終わらせられるようにしています。無事全員の手続きがスムーズに終わった時はいつもホッとします。しかし、ホッとしているのにもかかわらず、毎回何が起るかわからないのがこのクルーズ船の仕事です。乗客や乗

員で体調が優れない方がいて、救急車を手配して！と船のメディカルセンターから急に呼び出されることもあれば、乗組員から、寿司を食べたい！連れて行って！と頼まれることもあります。臨機応変な対応が必要です。また、鹿児島で乗組員の交代が行われることもよくあります。休暇のために下船し、自分の国に帰る人や、逆に休暇が終わって鹿児島から乗船し働く人もいます。多いときには各30人ほどの交代があり、ホテルやタクシーの手配などに追われて慌ただしい日々を過ごしています。

クルーズ船の中に一歩足を踏み入れ、まわりを見渡すと外国人しかいないし、様々な国の言葉が聞こえてきます。そこはまるで外国のようです。船内で乗組員と話す言語はもちろん英語です。初めは相手の言っていることが聞き取れなかったり、思うように自分の英語が通じなかったり、船の用語が全くわからなかったりしました。そのようなことから、自分に自信が持てず、誰かに話しかけられたらどうしようという不安から1人で船内で行動することが怖くなるのがよくあり

ました。しかし、何度もクルーズ船の代理店業務をしているうちに、英語に対する不安もなくなり、今ではこの仕事がとても楽しいです。

私は小さい頃から英語が好きで、地元で英語を使う仕事がしたいと思いこの会社に入りました。地元鹿児島に在りながら、こんなに多くの外国人と密接に関わり、好きな英語を生かした仕事ができることを誇りに思っています。これからはもっと自分の英語力を磨き、外国人とより円滑なコミュニケーションを取れるように頑張りたいです。皆さんも自分の好きなことを見つけて夢に向かって頑張ってください。

（二〇一七年三月 英語英文学専攻卒業、株式会社共進組）



# 彙報

## ◎人文学会行事日程

- 二〇一八年
- 十月三十一日『人文』第42号発行
- 十一月二十九日 特別講演会
- 二〇一九年
- 三月十八日「会報」第81号発行
- 四月十九日 総会・役員交代

(会長) 木戸

(評議員) 望月、土肥、遠峯、石井、土持

(会計監査) 小林

※会費に関する総会決議(二〇一五年十一月二十日)の  
但し書き「ただし、普通会员員については当分の間規定  
の半額を納めるものとする。」を削除。

七月二十日「会報」第82号発行



## 2018年度 人文学会決算報告書

収 入	
前年度繰越金	426,365
学生会員会費	77,000
普通会员会費	1,000
預金利息	3
収入計	504,368
支 出	
「人文」送料	22,220
会報印刷費	97,686
封筒・ラベル等	1,872
入会案内コピー代	840
卒業記念品	77,526
特別講演会	303,264
支出計	503,408
次年度繰越金	960

## 《編集後記》

四月に着任されたガルシア先生に自己紹介をしていただきました。昨年十一月の「人文学会特別講演会」は、洗足学園音楽大学教授で藤原歌劇団団員、日本を代表するバリトン歌手の一人である牧野正人さんに、日本歌曲を中心にイタリア、ドイツのオペラリアや歌曲のコンサートをさせていただきました。ちょっと参加者が少なかったのが残念でしたが、九州の近代文学に関する日本歌曲からオペラや《黒い猫が欲しかった(黒ネコのタンゴ)》まで、楽しく学ぶことができました。

『人文学会報』は文学科ホームページ

(<http://www.k-kentan.ac.jp/lit/>)に掲載しています。『人文』の方はKARN鹿児島県学術共同リポジトリの運用が終了し、鹿児島県立短期大学リポジトリ (<https://k-kentan.repo.nii.ac.jp/>)での公開に変わっています。

(望月)

## ◎教員人事

区分	職名	氏名	異動年月日	備考
退職	助教	大松 伸洋	31・3・31	生活科学科 生活科学専攻
採用	講師	ホルヘ ガルシアアロヨ	31・4・1	文学科 英語英文学専攻
昇任	教授	町田 和恵	30・10・1	生活科学科 食物栄養専攻
〃	〃	楊 虹	31・4・1	文学科 日本語日本文学専攻
〃	准教授	多田 司	〃	生活科学科 食物栄養専攻